

北海道の海外進出から 未来を考える

私の仕事

私は銀行員。タイの銀行に出向し、バンコクに2年間駐在した。銀行では、預金・融資・為替（振込など）が3大業務と言われ、それが本業である。銀行では「お金」は商品として扱われ、一般企業で言うところの、預金は仕入、融資は販売、為替は流通サービスである。しかし、私のタイでの仕事はこの3大業務ではなかった。

少子・高齢化社会と言われ続けて早十数年。近時ではマイナス金利といった未曾有の地にまで足を踏み入れた金融業界を取り巻くこの環境下において、銀行が生き残っていくために、銀行は3大業務の他に様々な仕事を行っている。私の仕事はその「様々な仕事」に類される。2年間バンコクで一体何をしてきたのか。

具体的に言えば、どうやったら北海道の「食」を売れるのか、どうすれば北海道に「観光」に来てくれるのか、である。この2年の駐在の間、ただひたすらこの事のみを考え、行動してきた。今回はその中で感じていることを僭越ながら、以下に記述する。

アジアにおける北海道の優位性

「北海道はうらやましいですね」この言葉をタイで何度聞いたことか。年間80万人程度のタイ人が日本を訪れる。そのうち北海道を訪れるタイ人は10万人程度。これだけでも如何に北海道の知名度が高いかがわかるだろう。北海道物産展をバンコクで開催すれば、その集客力は他県の1.5倍から2.0倍とも言われる。

なぜ北海道が好きなの？とタイ人に伺うと、大別すると返答は2つある。1つは寒いから。2つ目は美味



伊藤 彰浩 (いとう あきひろ)

(株)北海道銀行国際部

1983年札幌市出身。小樽商科大学を卒業後、(株)北海道銀行へ入行。2014年3月から駐在員としてタイへ赴任。16年3月帰国。4月から現所属。



海外へ出国する旅行者で賑わうタイの空港ターミナル

しいから。それでも彼らタイの方が北海道を「知っている」という事、そして、北海道へのあこがれに近い「イメージ」、これが北海道の優位性である。他県もうらやむ優位性なのである。そして、それはタイだけではなく、東南アジア全体にある。そしてさらに驚くのはその事実を北海道の方が意外と知らない事である。

海外進出は第2の創業

「海外進出は難しい」この2年間、様々な販路拡大イベントに参加・視察し、お客様と共に商談に同席し、バイヤーの話を聞き、後日フォローするという事を繰り返してきた結果、感じていることである。北海道の優位性があるのにも関わらず、である。

海外進出は第2の創業とよく言われる。ビジネスの場となる現地にどのようなニーズがあるのか、ニーズに応えるにはどのような商品が必要か、その商品を広めるにはどのような広告が必要か、まさに創業である。そのうえ、バンコク都は世界の食が集まる国際都市であり、その競争相手は全世界だ。しかも、その中心となるターゲットは日本人ではない。言葉も違えば、商慣習も法律も文化も価格水準も、何もかも違うのだ。北海道からタイへ商品を運ぶという、具体的な問題もある。乗り越えなければならない壁は日本での創業よりも高いのかもしれない。

海外進出に最も必要とされる能力とは？

精神論と言われるかもしれないが、海外進出を果たす最も重要なファクターは「やる気」であると考えている。「熱意」や「覚悟」と言い換えてもいい。上述の困難を乗り越えていくのに、最も必要な能力は資金力や語学力ではない。現に、現在進出を果たしている北海道企業は大企業ではない。彼らがタイという国、人、文化に真っ向から向き合い、上記に挙げた困難など氷山の一角で、現在もなお、途方もなく、予想しえない苦難に立ち向かっている。

海外進出案件は社長じゃなければ出来ないという理由はここにある。リスクとリターンはイコールであり、海外進出による利益を享受しようとすれば、リスクは



東京と見間違えそうな高層ビルの立ち並ぶバンコク市内

それと同等にある。しかもそのリスクは予想し難い。世界の常識は日本人の予想の枠をはるかに超えている。予想し難いリスクをその場で即座に判断出来るのは社長しかいない。そして、情熱を持たなければいけないのも、あるいは部下に情熱を持たせるのも、社長なのである。ビジネスの相手方として、タイ人は相手を冷静に見ている。彼らが遊びに来ているのか、本気でビジネスを考えているのか、をだ。

北海道の未来

国立社会保障・人口問題研究所によれば、北海道の2040年推計人口は約420万人（2010年比△130万人）だそうだ。人口推計は最も予測通りになる未来予測と言われている。北海道出身の私としては、この北海道の地に希望を持ちたい。持てるような活気のある社会にしたいと願うばかりである。

少なくとも世界はHokkaidoを「知っている」し、「あこがれに近いイメージ」を持っている。これを北海道の未来への希望だと思うのは私だけではないはずだ。確かに優位性は存在している。が、この優位性は万能ではない。我々一人一人の熱意と覚悟が必要なのだ。北海道の優位性は海外進出への入り口を他県よりも広くしてはいる。しかし、あくまでも入り口が用意されているというだけで、その後の道のりは自分達で切り拓き、整備しなければならない。そして私たち北海道民は得意なはずである。我々は「開拓者」なのだから。